

令和2年度 河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川生態) 研究開発テーマ
 <一般研究:中間評価結果>

テーマおよび概要		研究代表者名	評価	審議結果
テーマ	河川中流域における生物生産性の機構解明と河川管理への応用	信州大学 平林 公男	b	令和2年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	河川中流域の瀬・淵ユニットにおいて、緻密なフィールドデータと数値モデルを駆使し、生物生産の機構解明を行い、生物生産を良好に保つための河川管理基準「生産性管理基準」を提案し、今後の川づくりに応用する。			
テーマ	木曾三川流域における生物群集を対象とした河川生態系の管理手法に関する研究	岐阜経済大学 森 誠一	b	令和2年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	木曾川水系流域の湧水域と氾濫原域にある連続性低下等の共通課題と、その原因、メカニズム、事業対策という異質な課題に対して、進化的な時間スケールを視野に入れた生態学的アプローチによって解明・提言する。			
テーマ	気候変動下における河川生態系のレジリエンス-河川構造、生物多様性、生態系機能に着目して-	北海道大学 中村 太士	a	令和2年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	洪水攪乱前後並びに長期モニタリングデータを解析することにより、河川構造、生物多様性、生態系機能、個体群の安定性について検討し、気候変動モデルによる水温・流量予測から河川生態系のレジリエンスを評価する。			
テーマ	伝統的河川工法を用いた木津川の河床地形管理手法に関する研究	京都大学 竹門 康弘	b	令和2年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	木津川で市民参加により竹蛇籠・聖牛等の伝統的河川工法を製作設置し、河床地形や生物環境をモニタリング調査するとともに、既存の牛柵類について立地条件を分析し、河床地形管理に有効な伝統的河川工法を提案する。			

評価の凡例

- a:非常に優れた研究であった
- b:優れた研究であった
- c:条件付きで評価できる(研究費の減額等)
- d:優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)